

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	大島 埴生	(****年**月**日)
本籍	*****	
学位(専攻分野)	博士(医療福祉学)	
学位授与番号	甲第165号	
学位授与日付	令和2年9月24日	
学位授与の要件	学位規程第3条第3項該当	
論文題目	中年期に脳卒中を発症した人々の障害と生をめぐるエスノグラフィ	
審査委員	教授 長崎 和則	教授 飯田 淳子
	教授 熊谷 忠和	准教授 岩隈 美穂 (京都大学大学院)

博士論文内容の要旨

中年期に発症した脳卒中により残存した「障害」は、脳卒中となった人々（脳卒中者）の生活、特に就労やアイデンティティーに影響を与えている。本論文では、これまで十分に焦点が当てられてこなかった脳卒中者の「障害」に着目し、そこから生じる苦悩と紡ぎ出される生について、エスノグラフィを用いて明らかにしているところに価値がある。結果、中年期脳卒中者の障害は就労や社会関係において顕在化し、脳卒中者は排除される経験をしていた。そして、生きがいや社会関係においても「できない」という状態は幾重にも重なり、苦悩を生じさせていた。他方、「動かない身体」「緊張する身体」は、他者との関係の中で、「静観する身体」「共有する身体」という新たな価値を作り出していた。また、障害と他者、社会、場などの諸条件が複雑に絡み合った偶有性により生が紡ぎ出されていた。さらに、これらを踏まえた上での脳卒中者への支援についても言及している。

博士論文審査結果の要旨

本論文は、中年期脳卒中者が抱える障害による生活における苦悩と、他者、社会、場など関係の中で紡ぎ出される生の可能生を、エスノグラフィの手法を用いて明らかにしているところに新規性がある。中年期脳卒中者がリハビリテーションに取り組む初期段階から、参与観察とインタビューを行い、経時的な人生を聴き取り、その内容を詳細に記述し意味づけをしている。また、従来は生活の再構築など成功体験に焦点が当てられていたが、なかなかそのようには行かない中年期脳卒中者の障害にまつわる苦悩に焦点を当てていることも評価できる。さらに、他者との関係や場などの複雑に絡み合った偶有性によって新しい生の意味づけや価値を見出されたことを示しており、今後の中年期脳卒中者の支援への新たな視点を提示しており、博士論文としてふさわしいと結論した。